

定期作況報告

平成24年11月
(11月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：上旬の平均気温は平年より極めて低く、中旬はやや高く、下旬は極めて高かった。4月の月平均気温は4.7℃で平年よりやや高かった(+0.6℃)。上旬の降水量は平年より極めて多く、中旬は少なく、下旬はやや少なく、月合計は55.5mmで平年並であった。上旬・中旬・下旬の日照時間はともに平年並で、月合計は171.0時間で平年並であった。

5月：上旬の平均気温は平年より極めて高く、中旬は極めて低く、下旬は平年並であった。5月の月平均気温は10.2℃で平年並であった(+0.1℃)。上旬の降水量は平年より極めて多く、中旬は多く、下旬は少なく、月合計は64.0mmで平年並であった。上旬・中旬の日照時間は平年よりやや少なく、下旬はやや多く、月合計は153.4時間で平年並であった。

6月：上旬の平均気温は平年並で、中旬は平年より極めて低く、下旬はやや低かった。6月の月平均気温は14.3℃で平年よりやや低かった(-1.1℃)。上旬の降水量は平年より少なく、中旬は極めて多く、下旬は少なく、月合計は63.5mmで平年並であった。上旬の日照時間は平年よりやや多く、中旬は平年並で、下旬はやや多く、月合計は203.3時間で平年よりやや多かった。

7月：上旬の平均気温は平年より高く、中旬は低く、下旬は高かった。7月の月平均気温は18.8℃で平年よりやや高かった(+0.8℃)。上旬の降水量は平年より極めて多く、中旬はやや少なく、下旬は多く、月合計は145.5mmで平年よりやや多かった。上旬の日照時間は平年よりやや少なく、中旬・下旬は平年並で、月合計は135.5時間で平年並であった。

8月：上旬の平均気温は平年より極めて低く、中旬はやや高く、下旬は極めて高かった。8月の月平均気温は20.5℃で平年よりやや高かった(+0.7℃)。上旬の降水量は平年よりやや少なく、中旬・下旬は少なく、月合計は73.5mmで平年より少なかった。上旬の日照時間は平年より少なく、中旬は平年並で、下旬は平年より多く、月合計は143.0時間で平年並であった。

9月：上旬・中旬・下旬の平均気温はともに平年より極めて高かった。9月の月平均気温は19.6℃で平年より極めて高かった(+4.1℃)。上旬の降水量は平年並で、中旬は多く、下旬は少なく、月合計は115.5mmで平年並であった。上旬の日照時間は平年よりやや多く、中旬は平年並で、下旬はやや少なく、月合計は155.8時間で平年並であった。

10月：上旬の平均気温は平年よりやや高く、中旬・下旬は平年並であった。10月の月平均気温は9.3℃で平年よりやや高かった(+0.6℃)。上旬の降水量は平年並で、中旬・下旬は極めて多く、月合計は133.0mmで平年より多かった。上・中旬の日照時間は平年並で、下旬は平年よりやや少なく、月合計は131.3時間で平年よりやや少なかった。

11月：上旬の平均気温は平年より高く、中旬は平年よりやや高かった。中旬までの平均気温は4.8℃で平年より高かった(+1.7℃)。上旬・中旬の降水量は平年より極めて多く、中旬までの合計は143.0mmで平年より極めて多かった。上旬・中旬の日照時間は平年より少なく、中旬までの合計は38.8時間で平年より少なかった。

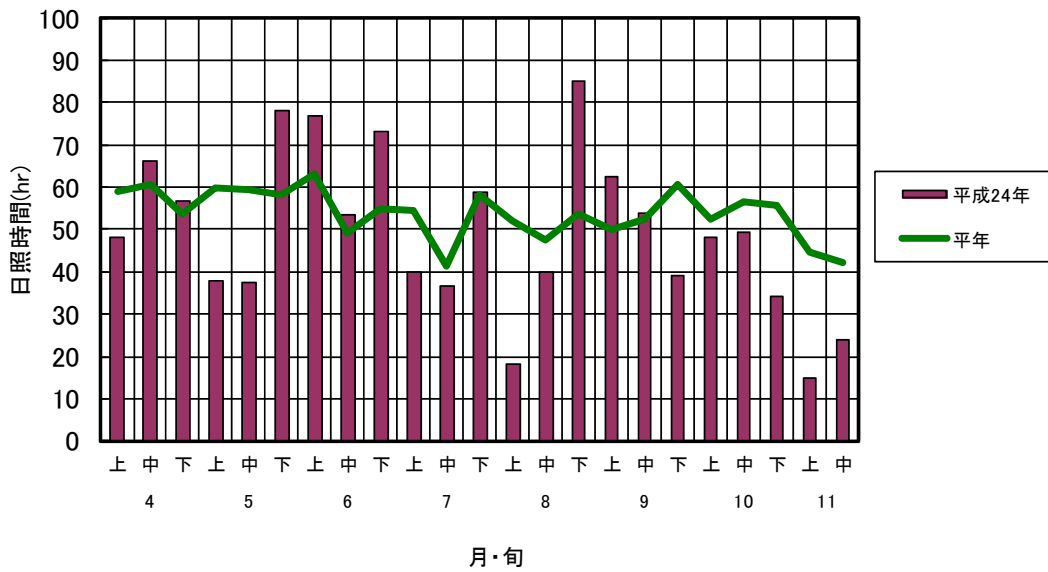
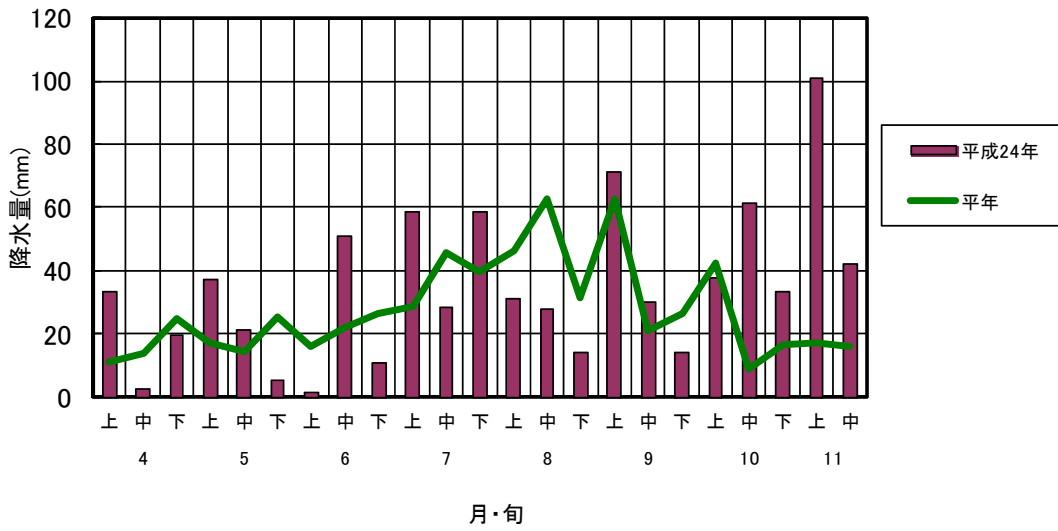
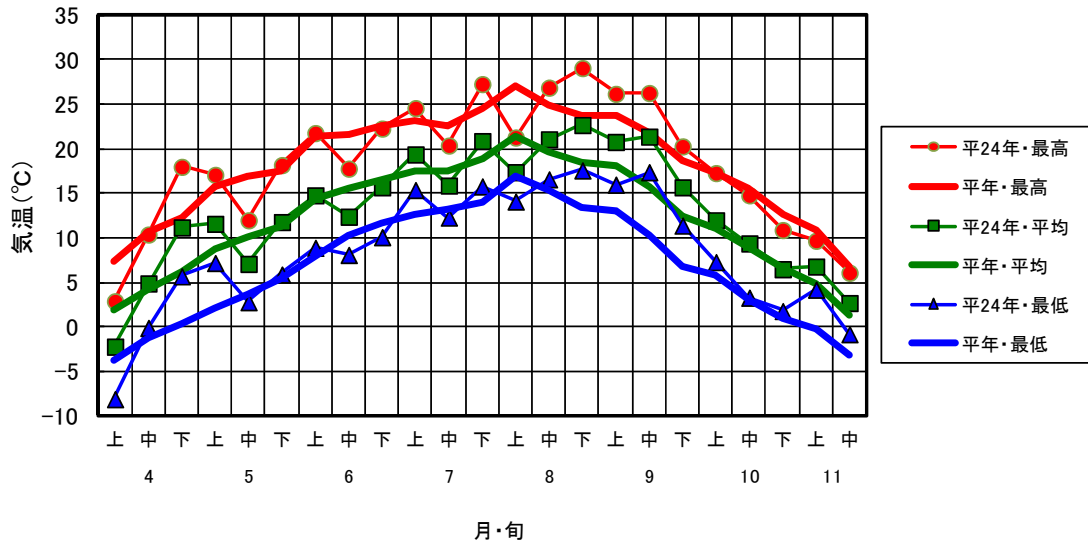
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温：5月は平年並で、6月はやや低く、7月はやや高く、8月はやや高く、9月は極めて高かった。この期間の日平均気温の積算値は2537.3℃で平年より極めて高かった(平年対比+105.0℃)。

降水量：5月・6月は平年並で、7月はやや多く、8月は少なく、9月は平年並であった。この期間の降水量の積算は462.0mmで平年よりやや少なかった(平年対比-24.5mm、95%)。

日照時間：5月は平年並で、6月はやや多く、7月・8月・9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は791.0時間で平年並であった(平年対比-24.6時間、97%)。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
4	上	-2.2	1.8	△4.0	2.9	7.3	△4.4	-8.1	-3.8	△4.3	33.5	11.2	22.3	48.1	58.9	△10.8
	中	4.9	4.3	0.6	10.4	10.6	△0.2	-0.1	-1.2	1.1	2.5	14.0	△11.5	66.1	60.7	5.4
	下	11.2	6.1	5.1	18.0	12.2	5.8	5.7	0.3	5.4	19.5	24.8	△5.3	56.8	53.5	3.3
5	上	11.6	8.7	2.9	17.1	15.7	1.4	7.2	2.1	5.1	37.0	17.2	19.8	37.8	60.0	△22.2
	中	7.1	10.1	△3.0	12.0	16.9	△4.9	2.8	3.7	△0.9	21.5	14.3	7.2	37.6	59.6	△22.0
	下	11.8	11.3	0.5	18.2	17.5	0.7	5.9	5.5	0.4	5.5	25.5	△20.0	78.0	58.3	19.7
6	上	14.8	14.4	0.4	21.8	21.4	0.4	8.9	8.0	0.9	1.5	16.1	△14.6	77.0	63.2	13.8
	中	12.4	15.5	△3.1	17.8	21.6	△3.8	8.1	10.2	△2.1	51.0	22.4	28.6	53.3	49.0	4.3
	下	15.7	16.5	△0.8	22.3	22.5	△0.2	10.1	11.6	△1.5	11.0	26.5	△15.5	73.0	54.9	18.1
7	上	19.4	17.5	1.9	24.6	23.1	1.5	15.4	12.6	2.8	58.5	28.9	29.6	39.9	54.6	△14.7
	中	15.9	17.5	△1.6	20.4	22.6	△2.2	12.3	13.3	△1.0	28.5	46.0	△17.5	36.6	41.3	△4.7
	下	20.9	18.8	2.1	27.3	24.5	2.8	15.8	14.0	1.8	58.5	39.7	18.8	59.0	58.2	0.8
8	上	17.4	21.4	△4.0	21.3	27.0	△5.7	14.1	17.0	△2.9	31.0	46.1	△15.1	18.2	52.0	△33.8
	中	21.1	19.6	1.5	26.9	24.9	2.0	16.6	15.3	1.3	28.0	62.5	△34.5	39.9	47.4	△7.5
	下	22.7	18.4	4.3	29.1	23.8	5.3	17.6	13.5	4.1	14.5	31.4	△16.9	84.9	53.8	31.1
9	上	20.8	18.1	2.7	26.2	23.7	2.5	16.0	13.0	3.0	71.5	62.7	8.8	62.7	49.9	12.8
	中	21.4	15.7	5.7	26.3	21.8	4.5	17.4	10.2	7.2	30.0	20.9	9.1	53.8	52.5	1.3
	下	15.7	12.5	3.2	20.3	18.6	1.7	11.4	6.8	4.6	14.0	26.7	△12.7	39.3	60.8	△21.5
10	上	12.0	11.0	1.0	17.3	17.3	0.0	7.3	5.7	1.6	38.0	42.7	△4.7	48.0	52.6	△4.6
	中	9.4	8.9	0.5	14.8	15.6	△0.8	3.3	3.0	0.3	61.5	8.9	52.6	49.3	56.4	△7.1
	下	6.5	6.5	0.0	10.9	12.7	△1.8	1.8	1.0	0.8	33.5	16.7	16.8	34.0	55.8	△21.8
11	上	6.8	4.9	1.9	9.7	10.8	△1.1	4.2	-0.2	4.4	101.0	17.2	83.8	15.0	44.8	△29.8
	中	2.7	1.3	1.4	6.1	6.7	△0.6	-0.8	-3.2	2.4	42.0	16.1	25.9	23.8	42.2	△18.4

注) 観測値は気象庁ホームページの気象統計情報で公開している置戸町境野のアメダスによる。
 観測統計の解説は<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/kaisetu/index.html>を参照。
 本年の値は確定前の速報値を含む。平年値は前10か年の平均値である。
 日照時間の平年値は、回転式日照計に換算した値(平成21年1月14日の測器変更以前のデータを補正)。
 本年9月下旬および10月下旬の値はすべての気象要素が信頼性のやや劣る準正常値である。

4) 季節表

項目 年次	前年 根雪始 月日	融雪 期 月日	根雪 期間 日数	耕鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算(5~9月)		
										平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
本年	H23年 11.30	4.15	138	4.26	5.12	4.22	10.22	182	11.15	2537.3	462.0	791.0
平年	12.6	4.10	126	4.28	5.2	5.14	10.11	149	10.31	2408.0	486.5	815.6
比較	△6	5	12	△2	10	△22	11	33	15	129.3	△24.5	△24.6

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。
 平年値は前10か年データの平均値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦(平成23年9月播種) 作況: やや良

事由: 播種は平年より1日早い9月15日に行った。越冬前の草丈は平年より低く、茎数も平年より少なかった。根雪期間は平年より12日長く、雪腐病の発生は平年よりやや多かったが、被害程度としては軽微であった。

融雪期が平年より遅れたため融雪後の生育は遅れたが、4月下旬以降は5月中旬を除き気温が平年並から高かったため生育は進み、草丈は平年より高く、茎数は平年より少なく推移した。出穂期は平年より4日早い6月7日であった。出穂期以降は6月中旬および7月中旬に気温が低く、登熟に日数を要した。成熟期は平年より1日早い7月26日となり、登熟期間は平年より3日長かった。稈長は平年並、穂長は平年よりやや長く、穂数は平年より少なかった。子実の充実は良好で、リットル重ならびに千粒重は平年を上回り、子実重は平年比105%とやや多かった。検査等級は1等で平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	きたほなみ			
	本年	平年	比較	
播種期 (平成23年月.日)	9.15	9.16	△1	
出芽期 (平成23年月.日)	9.26	9.24	2	
出穂期 (平成24年月.日)	6.7	6.11	△4	
成熟期 (平成24年月.日)	7.26	7.27	△1	
草丈(cm)	(平成23年11月20日)	16.1	19.4	△3.3
	(平成24年5月20日)	41.6	37.3	4.3
	(平成24年6月20日)	98.4	88.9	9.5
茎数(本/m ²)	(平成23年11月20日)	1139	1649	△510
	(平成24年5月20日)	1312	1535	△223
	(平成24年6月20日)	628	813	△185
稈長(cm) (成熟期)	89	87	2	
穂長(cm) (成熟期)	9.3	8.4	0.9	
穂数(本/m ²) (成熟期)	600	767	△167	
子実重(kg/10a)	718	686	32	
同上平年比(%)	105	100	5	
リットル重(g)	802	793	9	
千粒重(g)	40.0	35.9	4.1	
品質(検査等級)	1	2	—	

注1) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 秋まき小麦（平成24年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は平年より3日遅い9月19日に行った。播種後の気温は高かったが、種子の休眠が深く出芽期は平年より4日遅い9月28日であった。出芽期以降の平均気温は平年並から高く推移し、越冬前の草丈は平年並であった。茎数は平年より少ないが、越冬に必要な生育量は十分確保できている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (平成24年月.日)	9.19	9.16	3
出芽期 (平成24年月.日)	9.28	9.24	4
草丈(cm) (平成24年11月20日)	19.1	19.4	△0.3
茎数(本/m ²) (平成24年11月20日)	1301	1649	△348

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

3) 春まき小麦

作 況：良

事 由：融雪期は平年より5日遅い4月15日であったが、調査圃場は融雪剤散布により1週間程度融雪が早まった。播種期は平年並の4月20日であった。播種後の気温が高く推移したことから、出芽期は平年より4日早かった。

出芽後から5月上旬の気温が高く推移したため生育は進んだ。5月中旬および6月中旬が低温であったため生育はやや緩慢となり、出穂期は「春よ恋」で平年より2日早い6月23日となった。

7月下旬の降雨により「春よ恋」において中程度の倒伏が発生した。成熟期の稈長は平年より長く、穂長、穂数は平年並であった。

出穂期は2日早かったが8月上旬が低温で推移したため成熟期は平年並となった。登熟期間は平年より2日長くなり、子実の充実が良好となったため、子実重は「春よ恋」で平年比121%と多収となった。リットル重、千粒重も平年を上回った。成熟期前後の降雨により生産物の極一部に発芽粒が見られたが、検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.20	4.20	0	4.20	4.20	0	
出芽期 (月.日)	4.30	5.4	△ 4	4.30	5.5	△ 5	
出穂期 (月.日)	6.23	6.25	△ 2	6.20	6.24	△ 4	
成熟期 (月.日)	8.9	8.9	0	8.10	8.10	0	
草丈(cm)	(5月20日)	16.2	14.2	2.0	17.1	15.2	1.9
	(6月20日)	67.3	68.2	△ 0.9	70.8	66.9	3.9
茎数(本/m ²)	(5月20日)	439	359	80	419	361	58
	(6月20日)	830	831	△ 1	804	858	△ 54
稈長(cm) (7月20日)	98	90	8	99	92	7	
穂長(cm) (7月20日)	8.0	8.2	△ 0.2	7.2	7.4	△ 0.2	
穂数(本/m ²) (7月20日)	559	580	△ 21	573	600	△ 27	
子実重(kg/10a)	552	457	95	584	441	143	
同上平年比(%)	121	100	21	132	100	32	
リットル重(g)	812	796	16	820	796	24	
千粒重(g)	41.4	39.3	2.1	43.9	41.0	2.9	
品質(検査等級)	1	1	-	1	2	-	

注) 「春よ恋」の平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

「はるきらり(参考)」の平年値は前5か年の平均。

4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 平年並

事 由 : 播種期は平年より1日遅い5月18日で、出芽期は平年と同日の5月31日であった。出芽後は6月上旬の降水量が少なく、6月中旬の気温が平年より極めて低く推移したため、6月20日の草丈は平年をやや下回ったが、葉数は平年並であった。6月下旬と7月中旬の気温が平年より低く推移したことから、7月20日の草丈は平年を約15cm下回ったが、葉数は平年並であった。7月下旬は平年より高温で推移したものの8月上旬が極めて低温で推移したことから、開花期および抽糸期はともに平年より3日遅かった。しかし、その後は気温が平年より極めて高く推移したことから、9月20日の稈長は平年を15cm上回った。収穫期は平年より4日遅かった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と平年よりやや遅れ、総体の乾物率は平年並であった。乾物茎葉重は平年並で、乾物雌穂重は平年よりやや重く、乾物総重ならびに推定TDN収量は、いずれも平年対比104%と平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.18	5.17	1	
出芽期 (月・日)	5.31	5.31	0	
開花期 (月・日)	8.7	8.4	3	
抽糸期 (月・日)	8.6	8.3	3	
収穫期 (月・日)	9.27	9.23	4	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初～中期		
草丈 (cm)	(6月20日)	25.9	30.2	△4.3
	(7月20日)	152.9	167.5	△14.6
	(8月20日)	323.6	305.4	18.2
稈長 (cm)	(9月20日)	288	273	15
葉数 (枚)	(6月20日)	4.4	4.5	△0.1
	(7月20日)	12.3	12.1	0.2
	(8月20日)	14.9	14.9	0.0
生総重 (kg/10a)	6913	6610	303	
乾物茎葉重 (kg/10a)	957	932	25	
乾物雌穂重 (kg/10a)	1073	1016	57	
乾物総重 (kg/10a)	2030	1947	83	
同上平年比 (%)	104	100	4	
推定TDN収量 (kg/10a)	1469	1406	63	
同上平年比 (%)	104	100	4	
総体の乾物率 (%)	29.4	29.6	△0.2	
乾雌穂重割合 (%)	52.9	52.2	0.7	
有効雌穂割合 (%)	98.3	100.0	△1.7	

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

5) 大豆

作 況：平年並

事由：平年並の5月24日に播種を行った。播種後の気温がやや高かったため出芽期は平年より4日早かった。6月中旬及び7月中旬の気温が低かったため、生育初期の本葉数はやや少なく開花始は平年より6日遅かった。8月上旬の日照時間が少なかったためやや徒長し、8月以降の主茎長は平年より長かった。登熟期間の気温は高く推移したものの生育の遅れは回復できず、成熟期は平年より4日遅かった。着莢数は、開花始前後の7月下旬の気温が高かったため8月は平年より多かったが、8月上旬の低温によりその一部が伸育を停止し脱落したため、成熟期には平年をやや下回った。しかし、百粒重が平年を上回り、子実重は平年比100%であった。品質は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目		ユキホマレ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.24	5.24	0
出芽期	(月.日)	6.5	6.9	△ 4
開花始	(月.日)	7.25	7.19	6
成熟期	(月.日)	9.30	9.26	4
主茎長 (cm)	(6月20日)	8.1	9.6	△ 1.5
	(7月20日)	45.9	46.3	△ 0.4
	(8月20日)	74.8	61.5	13.3
	(9月20日)	75.5	60.9	14.6
	(成熟期)	75.5	60.9	14.6
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.4	0.7	△ 0.3
	(7月20日)	5.8	6.6	△ 0.8
主茎節数	(8月20日)	11.6	10.9	0.7
	(9月20日)	11.7	10.8	0.9
	(成熟期)	11.7	10.8	0.9
分枝数 (本/株)	(7月20日)	3.1	3.2	△ 0.1
	(8月20日)	5.4	5.3	0.1
	(9月20日)	5.2	5.1	0.1
	(成熟期)	5.2	5.1	0.1
着莢数 (個/株)	(8月20日)	85.9	71.3	14.6
	(9月20日)	65.9	71.9	△ 6.0
	(成熟期)	65.9	71.9	△ 6.0
一莢内粒数		1.82	1.82	0.00
子実重 (kg/10a)		385	386	△ 1
同上平年比 (%)		100	100	0
百粒重 (g)		40.9	35.7	5.2
屑粒率 (%)		1.8	1.7	0.1
品質 (検査等級)		2中	2中	—

注1) 平年値は、前7か年中平成17年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

6) 小豆

作 況：不良

事由：平年より1日遅い5月24日に播種を行った。播種後の気温がやや高かったため出芽期は平年より3日早かった。6月中旬及び7月中旬の気温が低かったため、生育初期の主茎長は短く、本葉数及び分枝数は平年よりやや少なく、開花始は「サホロショウズ」が5日、「エリモショウズ」が4日、それぞれ平年より遅かった。登熟期間の気温が平年より高かったため、8月以降の主茎長は平年並からやや長く推移し、成熟期は平年より「サホロショウズ」で3日、「エリモショウズ」で7日、それぞれ早かった。着莢数は、開花始後の8月上旬に気温が低かったため8月は少なかったが、その後高温に推移したことから成熟期には平年並であった。百粒重が平年を大きく下回ったため、子実重は「サホロショウズ」が平年比90%、「エリモショウズ」が同84%であった。品質は、「サホロショウズ」は平年よりやや優り、「エリモショウズ」はほぼ平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.23	1	5.24	5.23	1	
出芽期 (月.日)	6.8	6.11	△ 3	6.9	6.12	△ 3	
開花始 (月.日)	7.28	7.23	5	7.29	7.25	4	
成熟期 (月.日)	9.15	9.18	△ 3	9.19	9.26	△ 7	
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.0	3.3	△ 0.3	2.9	3.5	△ 0.6
	(7月20日)	13.0	17.7	△ 4.7	13.9	16.8	△ 2.9
	(8月20日)	69.3	66.8	2.5	60.0	63.7	△ 3.7
	(9月20日)	88.0	76.5	11.5	74.0	71.0	3.0
	(成熟期)	88.0	76.5	11.5	74.0	71.0	3.0
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.2	0.4	△ 0.2	0.2	0.3	△ 0.1
	(7月20日)	5.2	5.9	△ 0.7	5.2	5.9	△ 0.7
主茎節数	(8月20日)	13.9	12.7	1.2	14.3	13.7	0.6
	(9月20日)	14.6	13.3	1.3	14.5	14.3	0.2
	(成熟期)	14.6	13.3	1.3	14.5	14.3	0.2
分枝数 (本/株)	(7月20日)	0.5	1.9	△ 1.4	0.8	1.6	△ 0.8
	(8月20日)	5.1	4.8	0.3	5.7	4.4	1.3
	(9月20日)	4.3	4.0	0.3	4.4	3.9	0.5
	(成熟期)	4.3	4.0	0.3	4.4	3.9	0.5
着莢数 (個/株)	(8月20日)	48.0	59.1	△ 11.1	49.5	56.2	△ 6.7
	(9月20日)	61.4	60.9	0.5	61.7	60.8	0.9
	(成熟期)	61.4	61.6	△ 0.2	61.7	61.7	0.0
一莢内粒数	6.16	5.70	0.46	6.34	6.50	△ 0.16	
子実重 (kg/10a)	371	414	△ 43	392	465	△ 73	
同上平年比 (%)	90	100	△ 10	84	100	△ 16	
百粒重 (g)	13.5	15.2	△ 1.7	12.8	14.7	△ 1.9	
屑粒率 (%)	1.8	2.8	△ 1.0	1.4	2.4	△ 1.0	
品質 (検査等級)	3中	4上	—	3中	3下	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

7) 菜豆

作 況：平年並

事由：平年より1日遅い5月24日に播種を行った。出芽期は平年より1日早かった。草丈は6月中旬の平均気温が極めて低かったため6月は平年よりやや低かったが、7月上旬の気温が高かったことから7月は平年を上回り、その後も平年よりやや高く推移した。開花始は平年より2日遅かった。登熟期間の気温が平年より高く推移したため生育の遅れは回復し、成熟期は平年と同日であった。着莢数は、8月は平年よりやや多かったが、成熟期にはほぼ平年並であった。百粒重は概ね平年並であり、子実重は平年比97%であった。屑粒の発生が少なく品質は平年より優った。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.24	5.23	1	
出芽期 (月・日)	6.7	6.8	△ 1	
開花始 (月・日)	7.10	7.8	2	
成熟期 (月・日)	9.3	9.3	0	
草丈 (cm)	(6月20日)	7.6	8.8	△ 1.2
	(7月20日)	46.2	39.4	6.8
	(8月20日)	50.4	43.8	6.6
	(9月20日)	50.4	45.5	4.9
	(成熟期)	50.4	45.5	4.9
本葉数(枚)	(6月20日)	0.3	0.7	△ 0.4
	(7月20日)	3.1	3.2	△ 0.1
主茎節数	(8月20日)	5.1	5.2	△ 0.1
	(9月20日)	4.9	5.2	△ 0.3
	(成熟期)	4.9	5.2	△ 0.3
分枝数(本/株)	(7月20日)	3.8	4.5	△ 0.7
	(8月20日)	4.9	5.2	△ 0.3
	(9月20日)	4.1	4.4	△ 0.3
	(成熟期)	4.1	4.4	△ 0.3
着莢数(個/株)	(8月20日)	25.1	22.2	2.9
	(9月20日)	20.7	20.3	0.4
	(成熟期)	20.7	20.3	0.4
一莢内粒数	3.35	3.12	0.23	
子実重(kg/10a)	339	351	△ 12	
同上平年比(%)	97	100	△ 3	
百粒重(g)	72.1	73.7	△ 1.6	
屑粒率(%)	1.5	5.3	△ 3.8	
品質(検査等級)	1	3中	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

8) ばれいしょ

作 況：やや良

事由：植え付けは平年より4日遅い5月18日に行ったが、萌芽期は、「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年より1日遅れに留まり、さらにその後の干ばつの影響で生育ステージの進行が速まり、開花始は「男爵薯」が平年より1日早く、「コナフブキ」が平年並であった。茎長は短く推移していたが、7月上旬の高温とまとまった降雨の影響を受けて回復し、「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年並となった。枯ちよう期は、8月上旬の低温と、その後の8～9月の高温、9月上旬のまとまった降雨の影響により大きく遅れ、平年より「男爵薯」は35日、「コナフブキ」は17日遅かった。なお「コナフブキ」は10月22日の降霜をもって枯ちよう期とした。

「男爵薯」、「コナフブキ」とも塊茎肥大は順調に進み、特に「コナフブキ」の上いも平均重は平年を大きく上回った。上いも重は、「男爵薯」では上いも数がかかなり多かったことから平年を大きく上回ったが、「コナフブキ」は上いも数が少なかったことから平年並であった。でん粉価は、「男爵薯」、「コナフブキ」とも8月下旬～9月上旬の日照時間が多かったことから平年並かやや高く、「コナフブキ」のでん粉重は平年並となった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目		男爵薯			コナフブキ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月.日)	5.18	5.14	4	5.18	5.14	4
萌芽期	(月.日)	6.4	6.3	1	6.6	6.5	1
開花始	(月.日)	6.30	7.1	△ 1	7.1	7.1	0
枯ちよう期	(月.日)	10.7	9.2	35	10.22	10.5	17
茎長(cm)	(6月20日)	13.8	16.1	△ 2.3	12.8	16.9	△ 4.1
	(7月20日)	45	47	△ 2	75	68	7
	(8月20日)	50	50	0	87	85	2
茎数(本/株)	(6月20日)	3.8	3.6	0.2	2.8	2.9	△ 0.1
	(7月20日)	3.9	3.5	0.4	2.8	3.2	△ 0.4
	(8月20日)	3.5	3.3	0.2	3.1	3.1	0.0
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4228	4350	△ 122	3166	3298	△ 132
	(9月20日)	—	—	—	4610	4759	△ 149
でん粉価(%)	(8月20日)	15.3	15.2	0.1	21.4	20.0	1.4
	(9月20日)	—	—	—	22.2	21.2	1.0
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	—	—	—	977	960	17
上いも数(個/株)		11.0	9.7	1.3	7.8	9.9	△ 2.1
上いも平均重(g)		110	103	7	140	113	27
上いも重(kg/10a)		5391	4387	1004	4862	4939	△ 77
同上平年比(%)		123	100	23	98	100	△ 2
でん粉価(%)		15.4	14.8	0.6	22.4	21.5	0.9
でん粉重(kg/10a)		—	—	—	1040	1014	26
同上平年比(%)		—	—	—	103	100	3

注) 平年値は前7か年中、平成17(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均

9) てんさい

作 況：やや良

事 由： 播種は平年より1日遅い3月22日に行い、育苗中の生育は順調であった。移植は平年より6日早い5月2日に行った。移植後に降水があり、活着は良好であった。

以降、8月中旬まではおしなべて、気温は平年並みから低めに経過し、降水量および日照時間は平年並みであったため、生育は良好で、根重は平年を上回って推移した。しかし、8月下旬より9月下旬までは気温が極めて高く、10月上旬も最低気温が高い傾向にあったため、最終的に根中糖分は平年を1.5ポイントほど下回った。

収穫は平年より1日早い10月18日に行った。根重は、2品種平均で平年対比115%、根中糖分は91%、糖量は103%であった。

以上のことから、今年の作況は「やや良」である。

表 その1

調査項目	移植						直播注2)			
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.22	3.21	1	3.22	3.21	1	5.2	5.8	△6	
移植期 (月.日)	5.2	5.8	△6	5.2	5.8	△6	-	-	-	
出芽期 (月.日)	-	-	-	-	-	-	5.19	5.19	0	
収穫期 (月.日)	10.18	10.19	△1	10.18	10.19	△1	10.18	10.19	△1	
草丈(cm)	(5月20日)	5.3	4.5	0.8	6.1	4.3	1.8	-	-	-
	(6月20日)	25.9	25.7	0.2	27.6	25.4	2.2	13.4	13.3	0.1
	(7月20日)	51.1	57.5	△6.4	47.0	53.9	△6.9	48.7	51.1	△2.4
	(8月20日)	58.8	63.2	△4.4	54.2	58.9	△4.7	60.8	65.5	△4.7
	(9月20日)	59.8	64.5	△4.7	55.5	58.9	△3.4	60.1	67.8	△7.7
生葉数(枚)	(5月20日)	4.7	4.2	0.5	4.1	3.8	0.3	-	-	-
	(6月20日)	12.4	11.1	1.3	12.0	10.7	1.3	7.5	5.8	1.7
	(7月20日)	24.3	21.5	2.8	22.6	20.5	2.1	19.9	18.6	1.3
	(8月20日)	27.8	26.4	1.4	26.6	26.4	0.2	30.1	25.5	4.6
	(9月20日)	31.0	29.8	1.2	32.4	29.1	3.3	29.9	27.1	2.8
茎葉重(g/個体)	(6月20日)	116	90	26	125	88	37	11	10	1
	(7月20日)	667	712	△45	631	672	△41	487	492	△5
	(8月20日)	798	888	△90	827	924	△97	1008	952	56
	(9月20日)	658	882	△224	846	933	△87	768	947	△179
根重(g/個体)	(6月20日)	35	15	20	39	16	23	1	1	0
	(7月20日)	306	264	42	312	277	35	138	114	24
	(8月20日)	667	659	8	835	721	114	567	474	93
	(9月20日)	1062	926	136	1167	992	175	972	763	209
根周(cm)	(7月20日)	22.4	21.5	0.9	23.1	22.8	0.3	17.3	16.8	0.5
	(8月20日)	30.0	29.9	0.1	34.1	32.0	2.1	27.6	26.8	0.8
	(9月20日)	36.0	34.0	2.0	38.2	36.3	1.9	33.7	31.6	2.1
根中糖分(%)	(9月20日)	13.95	14.52	△0.57	14.24	14.74	△0.50	13.80	14.31	△0.51

表 その 2

調査項目	移植						直播注2)		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (収穫期)	5123	5311	△ 188	5528	5695	△ 167	4802	5656	△ 854
根 重 (kg/10a) (収穫期)	8092	6913	1179	8164	7236	928	6484	5728	756
同上平年比(%)	117	100	117	112	100	12	113	100	13
根 中 糖 分 (%)	15.75	17.36	△ 1.61	16.08	17.66	△ 1.58	15.83	17.36	△ 1.53
同上平年比(%)	91	100	△9	91	100	△9	91	100	△9
糖量 (kg/10a)	1274	1199	75	1313	1275	38	1026	992	34
同上平年比(%)	106	100	6	103	100	3	103	100	3

注1) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 直播「モノホマレ」は欠株が多いため参考成績

10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 良

事 由 : 萌芽期は4月23日と平年より1日遅かったが、冬損程度は平年並であった。

1番草は、6月中旬の気温が平年より極めて低く推移したため、一時的に生育が停滞したものの、出穂始は平年より1日早い6月13日で、出穂期は平年より3日早い6月17日であった。そのため、1番草刈取期の出穂程度がやや高く、乾物収量は平年対比118%と平年より多かった。

2番草は、7月上旬の気温が高く推移し、7月5日の降雨により圃場には十分な水分があったため、再生時の草丈がやや高かった。しかしながら、刈取期前の8月上旬の気温が極めて低く推移したため、草丈はやや低かった。節間伸長程度は平年並であった。乾物収量は平年対比100%と平年並であった。

3番草は、8月下旬～9月中旬の気温が極めて高く推移したため、草丈は平年並であったが、乾物収量は平年対比105%と平年よりやや多かった。年間合計乾物収量は平年対比112%と平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

表 その1

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.23	4.22	1
冬損程度		1.0	1.5	△0.5
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.13	6.14	△1
出穂期	(月.日)	6.17	6.20	△3
出穂程度	1番草	8.0	6.2	1.8
節間伸長程度	2番草	3.3	3.3	0.0
刈取日(月.日)	1番草	6.19	6.21	△2
	2番草	8.8	8.10	△2
	3番草	10.2	10.5	△3
倒伏程度	1番草	1.0	2.5	△1.5
病害罹病程度	1番草	1.0	1.9	△0.9
	2番草	3.0	3.4	△0.4
	3番草	2.3	4.2	△1.9
草丈(cm)	(5月18日)	47	32	15
	(6月5日)	87	69	18
	1番草	100	105	△5
	2番草再生時	46	39	7
	2番草	58	64	△6
	3番草再生時	42	46	△4
生草収量(kg/10a)	3番草	46	46	0
	1番草	2894	2713	181
	2番草	1079	878	201
	3番草	1001	559	442
	合計	4975	4150	825
乾物率(%)	1番草	24.2	22.6	1.6
	2番草	18.2	22.8	△4.6
	3番草	16.9	29.9	△13.0

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量 (kg/10a)	1番草	701	596	105
	同上平年比 (%)	118	100	18
	2番草	196	196	0
	同上平年比 (%)	100	100	0
	3番草	169	161	8
	同上平年比 (%)	105	100	5
	合計	1067	953	114
	同上平年比 (%)	112	100	12

注1) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、平成21年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

11) たまねぎ

作 況：平年並

事由：播種は、早生種「改良オホーツク1号」では平年より2日早い3月2日、晩生種「スーパー北もみじ」では平年より3日遅い3月13日に行った。育苗期間中の苗の生育は概ね順調であった。移植は、「改良オホーツク1号」は平年より6日早い5月2日、「スーパー北もみじ」は平年より3日早い5月9日に行った。移植時の苗質は、両品種とも育苗期間が平年より短かったため、草丈は平年をやや下回り、「スーパー北もみじ」では生葉数、葉鞘径とも平年をやや下回った。5月下旬から6月上旬の平均気温は平年並で、6月20日における生育は、「改良オホーツク1号」では、草丈および生葉数は平年並であり、葉鞘径は平年を上回っていた。一方、「スーパー北もみじ」では、草丈および生葉数は平年をやや下回っていた。6月下旬から7月中旬まで、おしなべて気温は平年並であり、生育は概ね順調であった。球肥大期は、「改良オホーツク1号」で平年より1日遅く、「スーパー北もみじ」で平年より2日遅かった。8月上中旬は、平年と比較して降水量はやや少ないものの、生育は概ね順調であった。倒伏期は「改良オホーツク1号」で平年より1日早く、「スーパー北もみじ」で平年並であった。根切りは、「改良オホーツク1号」では8月15日に、「スーパー北もみじ」では8月29日に行った。「改良オホーツク1号」では、枯葉期および総収量、平均一球重、規格内収量は平年並であった。「スーパー北もみじ」では、8月中旬以降、気温が高く推移したことから、倒伏後の枯葉の進みが早く、枯葉期は平年より5日早かった。平均一球重は平年を下回り、総収量は平年を下回ったものの、規格内率は平年より高く、規格内収量は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目		改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	3. 2	3. 4	△ 2	3.13	3.10	3
出芽期	(月.日)	3.14	3.17	△ 3	3.25	3.22	3
移植期	(月.日)	5. 2	5. 8	△ 6	5. 9	5.12	△ 3
球肥大期	(月.日)	7.7	7.6	1	7.22	7.20	2
倒伏期	(月.日)	8.1	8.2	△1	8.12	8.12	0
枯葉期	(月.日)	8.22	8.21	1	9.1	9.6	△5
収穫期	(月.日)	9.3	9.2	1	9.13	9.13	0
草丈(cm)	移植時	22.3	26.0	△3.7	20.7	24.7	△4.0
	(6月20日)	45.6	46.2	△0.6	27.8	34.8	△7.0
	(7月20日)	78.7	77.5	1.2	78.8	80.9	△2.1
生葉数(枚)	移植時	2.9	3.2	△0.3	2.8	3.3	△0.5
	(6月20日)	6.8	6.4	0.4	5.5	6.0	△0.5
	(7月20日)	9.7	9.2	0.5	9.5	10.3	△0.8
葉鞘径(mm)	移植時	3.9	4.0	△0.1	3.2	4.0	△0.8
	(6月20日)	13.2	11.0	2.2	9.0	8.9	0.1
	(7月20日)	21.5	20.6	0.9	20.9	21.6	△0.7
葉身生重(g)	(7月20日)	142.6	129.7	12.9	127.5	137.0	△9.5
球生重(g)	(7月20日)	119.5	112.2	7.3	46.3	53.6	△7.3
	(8月20日)	274.1	265.3	8.8	231.9	248.7	△16.8
総収量(kg/10a)		7815	7623	192	6496	7331	△835
規格内収量(kg/10a)		6519	6599	△80	6127	6389	△262
同上平年比(%)		99	100	△1	96	100	△4
規格内率(%)		83	88	△5	94	86	8
平均一球重(g)		254	259	△5	211	253	△42

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。